

小学校外国語活動を生かした指導

(その6)

～「音声と文字」との関わりを意識させる～

小学校外国語活動を生かした指導（その1）において

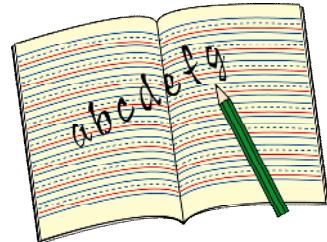
小学校で外国語活動を経験してきた生徒の変化の一つに次のものをあげました。

（1）音声を使った活動等に慣れてきている。

外国語活動は「～することができる」ことを目指すものではありませんが、音声中心の活動を通じ、自然に次の力が身に付いてきています。

- ・ 英語（語、文）を聞いて理解する力
- ・ 語彙力（特に名詞）・・・あくまでも音として

このことを生かして 文字指導 を意識して継続的に
行っているM中学校の実践例を見てみましょう。



M中学校での実践例

〔新出語句導入時〕

新出語句：name, like, math, study, every, day, music,
play, band (every day, band以外は、小学校で慣れ親しんでいる語です)

例) math, music の導入

⋮

T : I like music. What subject do you like, S1?

S1: English and Japanese. I like English and Japanese.

T : How about you?

S2: I like math and science.

T : How about social studies?

S3: I like it.

T : Let's practice "music" and "math" today.

T : What do "music" and "math" mean?

Ss: 音楽と数学。

T : OK. What is the first letter of "music" and "math"?

Music, music. Math, math (mを強調して)

Ss: M!

T : That's right.

そして、mを単語カードに示し、mの発音方法を確認し、生徒にリピートさせる。

主な教科名は、小学校で音として慣れ親しんでいるので、自然な流れで想起させるよう工夫している。

最初の文字を隠した
ワードカードを提示



※ 全ての新出語句を確認してから、ワードカードを使って全体練習をし、個々が読めるか列毎に確認するなどしながら丁寧に指導していました。

ポ イ ン ト

音声→文字 の順序で生徒に提示している。

これは、新出語句導入の一部です。言語習得の流れから言えば当然と言えば当然ですが、新出語句についても、文字より先に音声を与えていました。

次のような順序で `music`, `math` の提示を行っています。



1 音声提示

(この例では、小学校で慣れ親しんだ語句を想起させています)

2 意味確認

3 文字提示（一部空欄）

4 文字提示

5 `m` の発音方法を簡単に確認した後に練習

初めて耳にするような語は、写真や絵を添えて提示するとよい。

しかし、新出語句についてはワードカードなどを活用し、**文字から与えるケースが多い**のではないでしょうか？

次のようなケースが多くないですか？

例) T : はい、まずはこの単語から (単語提示)

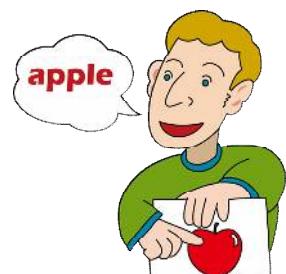
Repeat after me, please.

Buy

Ss: buy. . . .

T : What does “buy” mean?

Ss: 買う。



中学校での英語学習の大きなつまづきに、「文字へのとまどい」があげられます。その点について、中学校でやるべきことは二つあります。一つ目は、文字との出会い方の工夫です。M中学校のように、音声を十分に示してから関連付けて文字を提示する等の工夫が必要です。「文字と音」の関わりが体験的にぼんやりとでも子どもたちが感じができるようにしたいものです。二つ目は、十分な練習時間の確保です。単語の読みの練習や教科書本文の音読練習をしっかり行うことです。形だけ数回繰り返させるだけでは、あまり効果がありません。各自が、各校でも工夫して取り組んでほしいと思います。

M中学校では、1年生の入門期に簡単なフォニックス指導をします。具体的には、生徒が自然に音と文字の関係に気付けるようなDVD教材を4～5月に帯活動として見せてています。簡単なフォニックスルールは、参考資料程度の扱いで生徒には配付しますが、基本的には、新出語句導入の際に、計画的に繰り返し音と文字の関係について扱っています。